

実践報告

【スクールワイド】
ファシリテーションを用いた
特別支援学校の教員間連携に
ついての実践（2）

教員の願い

【児童の実態】

- ・ 全児童数 32名（男子27名，女子5名）
- ・ 実態は多様であるが，スケジュールを活用したり簡単な言語指示を理解して行動したりすることができる。

- ・ 日常生活の指導の時間に，児童が一人で自立して行動できるようにしたい。

- ・ 「日常生活チェックシート」の効果的活用による効率よい児童の実態把握→目標設定→引き継ぎのシステムの構築

アドバイザーからの助言（H30年度）

- 実践報告集の書式の統一
- 進捗状況検討会・学部報告会の実施
- 朝の活動で日常生活チェックシートを活用

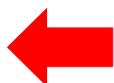
4月：チェックシートでの引継，実態把握



5・9月：個別の指導計画目標立案・指導実践



進捗状況検討会・学部報告会（年間4回）



3月：実践報告集作成

共通のテーマ・書式，チェックシートのチェック

進捗状況検討会・学部報告会の実施

○各グループでの進捗状況検討会（20分程度）

【話し合いの流れ】 共通の記録用紙を使用

- ①「褒め方」の共有（3分）
- ②記録（グラフ）を見せ合う（5分）
- ③事例についての話し合い（10分）

○学部報告会（10分程度）

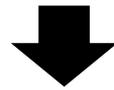
- ・各グループで話し合ったことを発表し、褒め方・支援を共有する。

* ポジティブな話し合い，ポジティブなフィードバックを行う。

* 短時間で，褒め方や支援方法などを共有できるようにする。

日常生活チェックシートの活用

年度末：担任が児童の実態をチェック



新年度：新担任が引き継ぎ・実態把握
個別の指導計画の目標立案・指導

* R元年度からは，帰りの日常生活の指導においてもチェックシートを作成して活用している。

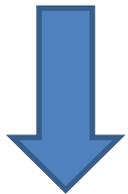
アドバイザーからの助言（R元年度）

- 日常生活チェックシートの再評価について
- 進捗状況検討会について
- 効率的な引き継ぎに向けて

4月：チェックシートでの引継，実態把握



5・9月：個別の指導計画目標立案・指導実践



夏季休業：チェックシートの再評価

進捗状況検討会・学部報告会（年間4回）

3月：実践報告集作成（共通テーマ・書式，チェックシート）

効率的な引継に向けた取組

日常生活チェックシートのチェック方法

- ①書式の改善：初めての教員でもつけやすいものにする。 ★新様式に改訂
- ②「ひとりでできる」の基準を明確にするため、小学部としての基準を決める。
- ③チェックの相違があった場合は、早期に前担任と話す機会を持つようにする。

進捗状況検討会について

- 指導を進めづらい事例や別の指導手続きのアイデアが求められている事例とする。
- 達成水準が高いケースはさらなるステップアップを検討する。
- 行動レパートリーが少ないケースは課題分析をする。

【協議例A 一人で体操服を着る】

- ・ 予め広げられた服の印を持って着ることができるようになってきた。
- ・ 今後どのように指導を進めていけばよいか？
- ・ **ステップアップについて検討をする。**

【協議例B 食後に自分で口元を拭き取る】

- ・ 教員の見守りがなくても確実にできるようにするためにどうすればよいか？
- ・ **ステップアップについて検討をする。**

効率的な引き継ぎに向けて

★別の教員による実施・確認

- ・「ひとりでできる」児童に対して
- ・一般化が難しいと思われる児童に対して

★ほめほめ週間の実施

- ・「褒める」ことをより意識し、それぞれの児童へのより効果的なほめ方を考え、実施する。

※次年度へ「褒め方」も引き継ぐ。

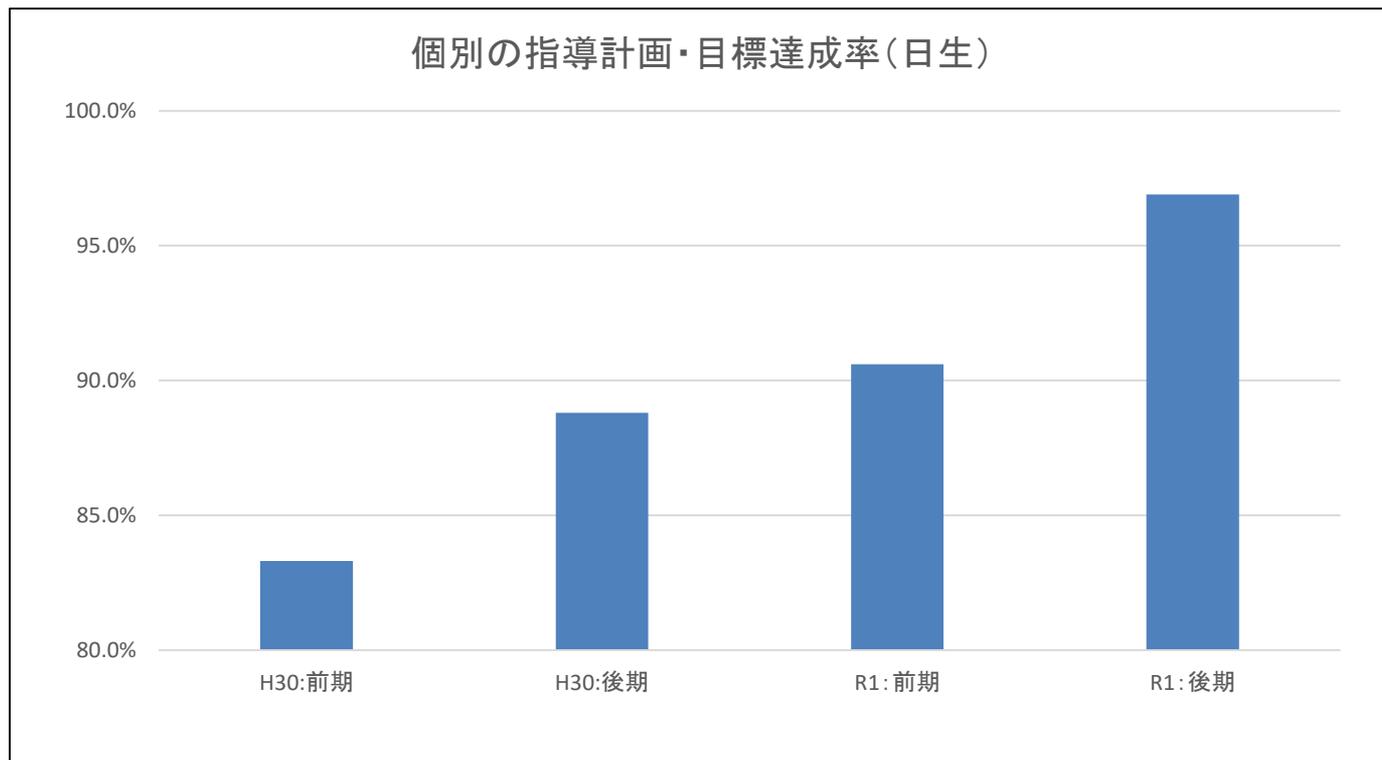
成果① 【児童の状況】

【児童の成果】

- ・ 個別の指導計画において，日常生活に関する目標を立案し，指導した結果である。

H30年度前期：83.3% H30年度後期：88.8%

R元年度前期：90.6% R元年度後期：96.9%



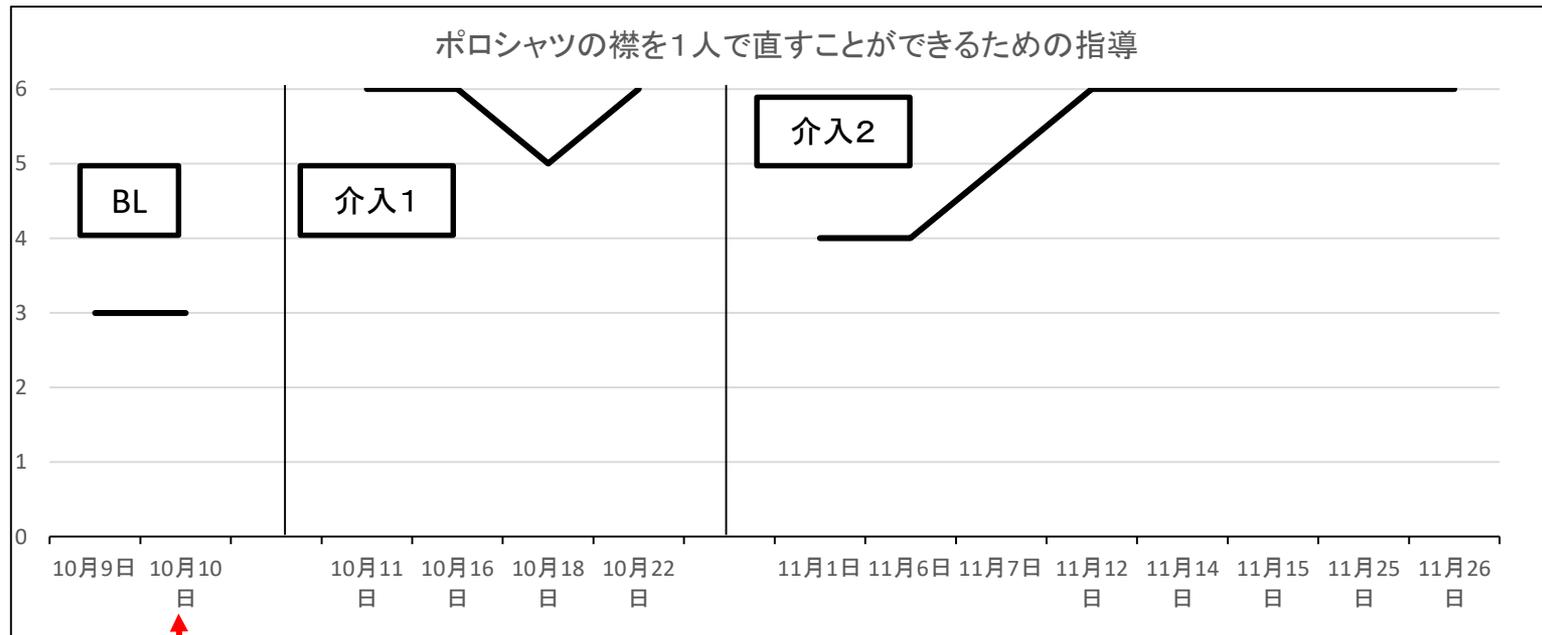
成果① 【児童の状況】

<指導例> ポロシャツの襟を1人で直すための指導

*ベースライン (BL) : 長袖・丸襟

介入1 : 長袖ポロシャツ+鏡でチェック

介入2 : 長袖ポロシャツとブレザー+鏡チェック



10月10日 グループ検討会を実施

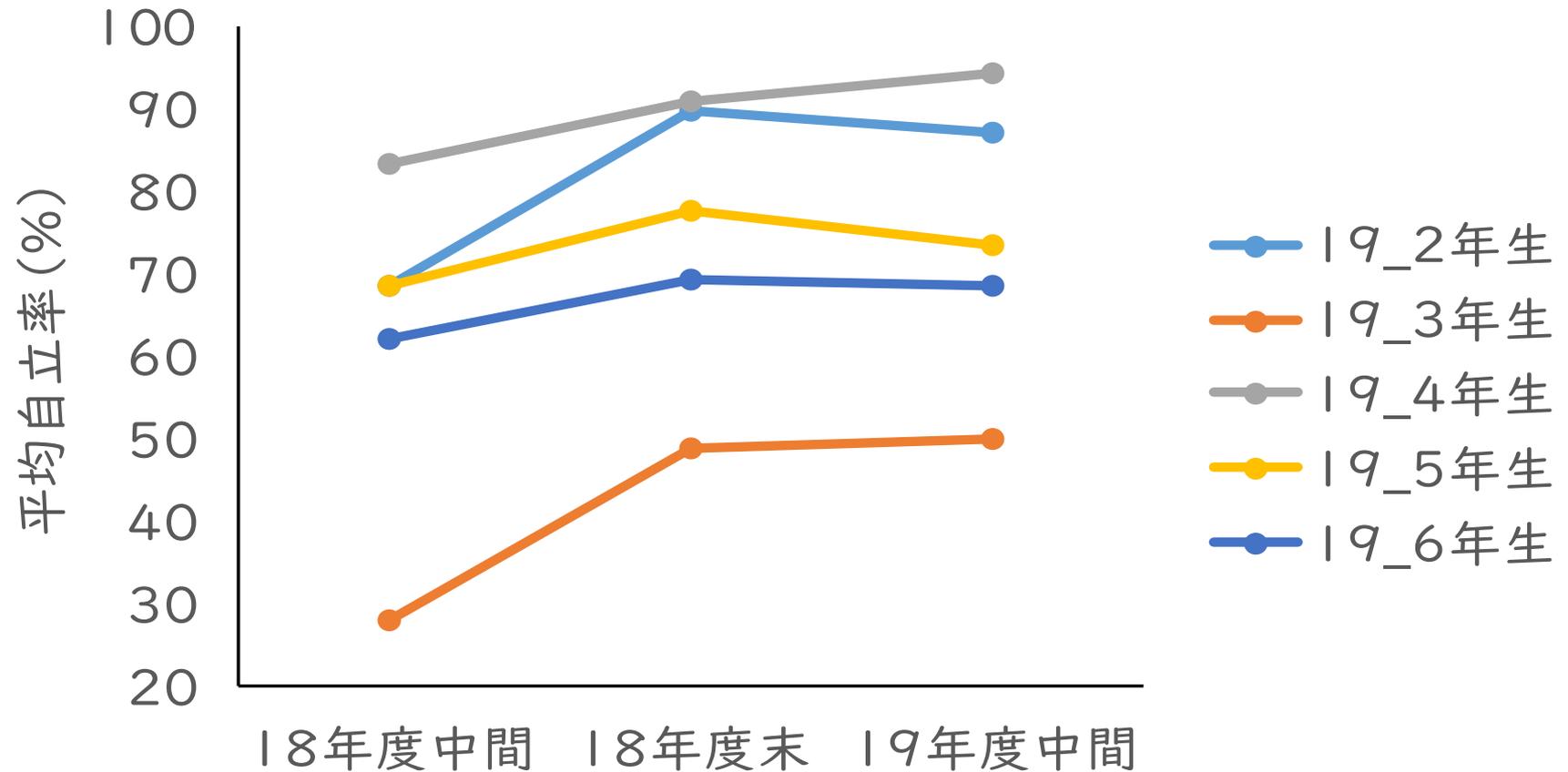
【出たアイデア】

- ①両手で首元（うしろ）をさわる
- ②先生の襟を直す
- ③手首の使い方を練習する
- ④鏡を見る

※介入1で、対面学習時に①～③に取り組んだ。

成果① 【児童の状況】

朝の日生の自立率（ひとりでできる項目の%）



※18年度中間と比較するため18年度末以降の「ひとりでできる」は「見守りなし+見守りあり」とした。

成果②【教員の変容】

①日常生活チェックシートの活用

- ・短時間で実態把握や引き継ぎに役立った。
- ・指導内容の選択・検討の参考に役立った。

②記録（グラフ）の効果

- ・成果が視覚的に確認でき、意欲が向上した。
- ・活用方法が単純明快で効率的であった。
- ・児童の伸びや指導改善のタイミングが掴みやすい。

③進捗状況報告会

- ・短時間で効率的な検討が行えた。
- ・行き詰まったときなどに様々なアイデアを同僚から提案してもらえ、他の児童の指導の参考になった。

成果のまとめ

1) 日常観察チェックシート

→ 実態把握や引き継ぎにとっても有効である。

2) 記録（グラフ）

→ 客観的な判断ができる。

自分の指導・支援の見直しができる。

3) 進捗状況検討会

→ うまくいかない指導をそのまま進めて「できなかった」で終わらせず、チームで話し合い、早期改善を図ることができる。

今後の課題

○初めての教員でも取り組めるように

- ・ 新赴任者対象の研修会の実施（4月頃）
- ・ 学部研修の実施（5月頃）
取り組みに対しての共通理解を図る。
（ベースラインや介入、「ひとりでできる」の基準についてなど）
- ・ 日常生活チェックシート・記録（グラフ）の様式の改善

ここがポイント

★共通のツールで同時期に評価をしたこと

- ・日常生活チェックシート，記録（グラフ）
→指導の成果が見える形になったことで，達成感にも繋がる。

★既存の枠組みの中で取り組んだこと

- ・個別の指導計画・実践報告と関連付ける。
- ・負担感の軽減につながる。

★ポジティブな話し合いを通して，学部全体で話しやすい雰囲気作りができたこと